

京都市立京北病院総合情報システム（オーダリングシステム）

【1】京都市立京北病院総合情報システム

この仕様書は、「京都市立京北病院給食調理業務委託」仕様書（別紙1）に記載する京都市立京北病院総合情報システムについて、当該システムの仕様内容を記載したものである。

機種はNEC社製Hs-Mirai's EX（3.1）である。

【2】基本機能

1. 操作者のユーザID（職員コード）とパスワードの入力で利用が可能となるシステムである。
2. 初期画面に掲示板を備えてあるシステムである。
3. 機密保護機能（職員コードとパスワードの妥当性チェック、職員の職制に応じた業務メニューの限定、職員の職制に応じた機能の制限）を有するシステムである。
4. パスワードは、操作者以外にはわからないような画面構成のシステムである。（パスワードの秘匿性を有している。）
5. 操作者情報（氏名、所属、端末設置場所）を自動表示できるシステムである。
6. 操作者情報は常に操作端末その他管理用端末に表示するシステムである。
7. 端末離席時には、コンピュータをロックし他者の不正アクセスを防ぐことが可能なシステムである。
8. 一定時間無操作であれば、操作端末を自動的にロックできるシステムである。
9. 各業務はアイコンボタンまたはメニューバーから選択できるシステムである。
10. 患者（外来、入院）の一覧表示ができるシステムである。また、一覧表示から直接患者選択が行えるシステムである。
11. 外来患者一覧表は次の①～③の機能を有するシステムである。
 - ① 日付を選択することにより該当日の表示に切り替わる機能を有するシステムである。
 - ② 操作者が医師の場合、担当する予約項目のスケジュールが表示できる機能を有するシステムである。
 - ③ 至急及び緊急検査の進捗状況を表示できる機能を有するシステムである。
12. 入院患者一覧表は次の①～②の機能を有するシステムである。
 - ① 病棟および診療科を選択することにより入院患者一覧、入院予定患者一覧、転入予定患者一覧が表示できる機能を有するシステムである。

- ② 日付を選択することで選択日の退院患者を表示できる機能を有するシステムである。
13. 画面の表示設定(項目の順番及び幅)を職員毎に変更できるシステムである
 14. オーダ指示のメイン画面はオーダ履歴ウィンドウ, 今回診療オーダウィンドウ, 患者履歴ウィンドウ, フォルダウィンドウで構成されているシステムである。
 15. オーダ履歴ウィンドウには患者の過去のオーダ履歴を表示可能なシステムである。
 16. 今回診療ウィンドウには入力したオーダの情報を表示し, 次の①～②の機能を有するシステムである。
 - ① オーダ入力方法はD O入力, フォルダウィンドウからのセット入力, 各種オーダ入力ウィンドウからの新規入力の3種類の入力方法が可能なシステムである。
 - ② 表示されたそれぞれの行について, そのオーダに応じたさまざまな編集作業が可能なシステムである。
 17. 患者履歴ウィンドウには, 患者の来院履歴, 予約状況, 入退院履歴が表示できるシステムである。
 18. フォルダウィンドウには病院/診療科/医師の3種類の区分に分けて, コメント, 薬剤, オーダ(セット)が管理できるシステムである。また, 診療記録でのフリーコメントをセット化できるシステムである。
 19. 機能メニューを職制毎に作成可能であるシステムである。
 20. オーダ等をカレンダー形式で参照することができ, カレンダー形式の画面から新規オーダ登録や修正等の操作が可能なシステムである。

【3】患者基本オーダ

1. 医事システムで保有する患者の基本属性情報を表示可能なシステムである。
2. 看護情報, 基本情報, 障害情報, 感染情報, 薬剤禁忌情報, 職種コメント, 家族歴情報, ADL 情報等を登録する機能を有するシステムである。
3. 機密保護のため参照できる項目, 登録できる項目を職制に応じて制限可能な機能を有するシステムである。
4. 次の①～④の内容を表示し, 入力・修正ができるシステムである。なお, 病名については, 病名入力画面から修正できるシステムである。
 - ① 病名(主病名等), 登録診察科, 開始・終了日, 転帰
 - ② 感染症と検査日
 - ③ 禁忌(薬剤, 食物)
 - ④ 身長・体重

5. 紹介患者の管理が出来るシステムである。また、紹介患者であることがカルテ画面にて認識できるシステムである。
6. 職制毎のコメントが入力できるシステムである。
7. 患者固有の情報が複数設定でき、設定した内容がカルテ画面で認識することができるシステムである。

【4】外来基本オーダー

1. 医師（診察室）別予約及び予約外患者一覧を識別表示できるシステムである。
2. 患者の呼び出し状況を未来院，診察待ち，診察終了，診察一時終了別に識別表示できるシステムである。
3. 予約外患者を予約患者一覧へ割込み入力できるシステムである。
4. 次の①～⑨の内容が表示できるシステムである。
 - ① 予約時間
 - ② 当日最新結果送信情報
 - ③ 受付時刻
 - ④ 患者氏名，年齢，性別
 - ⑤ コメント
 - ⑥ 患者 ID
 - ⑦ 併科受診情報
 - ⑧ 外来患者呼び出し状況
 - ⑨ 受付番号
5. 患者 ID 及び患者氏名の 50 音検索ができるシステムである。
6. 同姓同名の患者については，その識別表示ができるシステムである。
7. 当日再診患者の保留機能を有し，識別表示ができるシステムである。
8. 患者選択によりオーダー画面に展開が可能で，患者が入室しない場合は，診察中断ができるシステムである。
9. 診察終了患者は，非表示とすることが可能で，必要に応じて再表示ができるシステムである。
10. 診察終了毎に最新表示できるシステムである。
11. 代行入力機能を有するシステムである。
12. 担当医師への連絡のために，診療予約時に定型コメント，フリーコメント入力ができるシステムである。
13. 診療予約区分の表示ができるシステムである。
14. 紹介情報が入力されているか識別可能なシステムである。

【5】入院基本オーダー

1. 入院予定, 入院決定, 入院確認, 転棟予定, 転科・転室・転ベッド, 外泊・外出, 退院予定, 退院確認, 医師／看護師の登録が可能なシステムである。
2. 登録された情報の一部は食事オーダーに自動的に反映されるシステムである。
3. 入院予定オーダーは次の①～④の機能を有する。
 - ① 入力項目は依頼診療科・医師, 入院予定日, 目的, 期間, 主治医, 担当医, 看護師, 病棟, 病室が設定・入力・編集ができるシステムである。ただし, 主治医, 担当医, 看護師, 病棟, 病室は入力等が省略可能なシステムである。
 - ② 必要に応じて, 入院病名が登録可能なシステムである。
 - ③ 入院時の食事が選択可能なシステムである。
 - ④ 登録した情報は入院予定患者一覧に反映されるシステムである。
4. 入院決定オーダーは次の①～④の機能を有する。
 - ① 入力項目は依頼科・医師, 入院決定日・時間, 目的, 期間, 主治医, 病棟, 病室, ベッド, 担当医, 看護師とし, ただし, 担当医, 看護師は省略可能なシステムである。また, 入力予定が登録済みの場合は, 情報をそのまま引き継げるシステムである。
 - ② 必要に応じて入院病名が登録可能なシステムである。
 - ③ 入院時の食事が選択可能なシステムである。(入院予定で登録済みの場合は情報を引き継ぐことが可能なシステムである。)
 - ④ 登録した情報は, 入院決定患者一覧に反映されるシステムである。
5. 入院確認オーダーは次の①～④の機能を有する。
 - ① 入力項目は, 依頼科・医師, 入院日・時間, 主治医, 病棟・病室・ベッド, 担当医, 看護師, 室料扱いができるシステムである。ただし, 担当医, 看護師, 室料扱いは省略が可能なこと。また, 入力予定, 入院決定が登録済みの場合は情報をそのまま引き継げるシステムである。
 - ② 登録した情報は入院患者一覧に反映されるシステムである。
6. 入院病名入力と病名オーダーが連動できるシステムである。
7. 転科予定オーダー(転出側病棟にて登録)は, 次の①～③の機能を有する。
 - ① 入力項目は転棟日時, 診療科, 病棟, 病室, ベッドとし, 設定・入力・編集が可能なシステムである。
 - ② 登録した情報は転入側の病棟の転入予定患者一覧に反映されるシステムである。
 - ③ 食事オーダーには配膳先の変更情報として反映されるシステムである。
8. 転入確認オーダー(転入側病棟の確認情報)は次の①～④の機能を有する。
 - ① 入力項目は転棟日時, 診療科, 病棟, 病室, ベッドとし, 設定・入力・編集が可能なシステムである。
 - ② 転棟予定情報はそのまま引き継ぐシステムである。

- ③ 転出側の病棟で未実施の予定オーダーや継続オーダーが存在するとき、転科を伴わない場合には自動的に転入側の病棟のオーダーに変更するシステムである。
 - ④ 登録した転入情報により転入予定患者一覧から該当患者が消去されるシステムである。
9. 転科・転室・転ベッド登録は次の①～③の機能を有すること。
- ① 入力項目は転棟日時、診療科、病棟、病室、ベッド、室料扱いができること。ただし、室料扱いは省略可能なこと。
 - ② 登録された内容が即時実行され入院患者一覧に反映されるシステムである。
 - ③ 食事オーダーには配膳先の変更情報として伝達されるシステムである。
10. 一覧画面でドラッグアンドドロップにより転室、転ベッドが可能であるシステムである。
11. 外泊・外出オーダーは次の①～②の機能を有する。
- ① 入力項目は開始日時、食事中止日、食事中止区分（朝食・昼食・夕食）、終了日時、食事再開日、食事再開区分（朝食・昼食・夕食）及び理由の入力が可能なシステムである。
 - ② 登録した情報は、食事オーダーに欠食情報として伝達されるとともに医事システムにも反映されるシステムである。
12. 医師／看護師登録は①～③の機能を有する。
- ① 入力項目は主治医（1 期間に 1 名のみ登録）、担当医（複数登録可）、看護師（1 期間に 1 名のみ登録）の入力等が可能であるシステムである。
 - ② 入力項目は主治医、担当医、看護師等の入力が可能であるシステムである。
 - ③ 主治医、担当医、看護師は複数登録できるシステムである。
13. 退院予定オーダーは次の機能を有する。
- 入力項目は退院日時、理由等が入力が可能であるシステムである。
14. 退院確認オーダーは次の①～②の機能を有する。
- ① 項目は退院日時、理由等の入力可能なシステムである。
 - ② 登録した情報は食事オーダーに食止め情報として伝達されるとともに医事システムにも反映されるシステムである。
15. 患者に指示された入院基本オーダーの履歴状況を一覧形式で表示できるシステムである。
16. 患者 ID 及び 50 音検索ができるシステムである。
17. 同姓同名の患者は、識別表示できるシステムである。
18. 入院患者の一覧を病棟イメージによる表示が可能なシステムである。
19. 空床状況を日付毎に表示可能な画面を有するシステムである。
20. カレンダー形式の病床照会から入院オーダーが可能なシステムである。

【6】食事オーダー

1. 入院時の食事情報，転科・転室情報，外泊・外出に伴う欠食情報及び退院による食止め情報は入院基本オーダーから自動的に伝達されるシステムである。
2. 給食システムへの情報伝達を可能とするシステムである。
3. 次の内容を入力ができるシステムである。マスタまたは他のシステムで入力済みの項目については選択入力または自動表示可能なシステムである。
 - ① 食種
 - ② 開始日，終了日
 - ③ 食事区分（朝・昼・夕）
 - ④ 主食の食品・量
 - ⑤ 禁止食品，代替食品
 - ⑥ 特別食の加算・非加算
 - ⑦ エネルギー指示（熱量制限，低蛋白食）
 - ⑧ 食止め及び理由
 - ⑨ 定型コメント及びフリーコメント
4. オーダ食の栄養量表示ができるシステムである。
5. 食種一覧表からの食種選択入力ができるシステムである。
6. 食種一覧表には食種別の栄養量の表示ができるシステムである。
7. 食事開始日，食事区分（朝・昼・夕食）の入力画面は締切り時間を考慮した表示ができるシステムである。
8. 食事終了日は指定しない限りオーダー食を継続するシステムである。
9. 患者に指示した食事の履歴内容をカレンダー形式（2週間分）で表示し次の①～③の機能を有する。
 - ① 日付または患者の選択により該当する食事詳細情報を表示できるシステムである。
 - ② 表示されたオーダーに対し，食事箋の発行，仮発行，再発行が行えるシステムである。
 - ③ 表示されたオーダーに対し，削除指示，未実施指示，中止指示，中止取り消し指示が行えるシステムである。
10. 登録済みの食事の編集，登録済みの食事の流用（コピー）が可能なシステムである。
11. 食種をグループ別に分類管理及び選択できるシステムである。
12. 身長・体重の入力が可能であり，患者基本情報と連動しているシステムである。
13. 選択した食種に応じた，詳細指示が可能で，次の①～⑤の機能を有する。
 - ① 食事締め切り時間のチェックを自動的にを行い登録可能な食事開始日／区分を既定値として表示することが可能なシステムである。

- ② 食事を継続する場合，終了日および食事終了区分は入力を省略できるシステムである。
 - ③ 特別食を指示する場合は，必要に応じて特別加算病名を入力できるシステムである。
 - ④ 特別指示として栄養管理部門に伝えたいコメント情報や食物禁忌情報（患者基本オーダーで登録済み項目が自動的に選択済みになる。）が入力可能なシステムである。
 - ⑤ 術後食，潰瘍食等はパターン食として食事の変動（食上がり）に従ったセットが作成可能なシステムである。
14. 食事と患者食物アレルギーとのチェック機能を有するシステムである。
15. 身長/体重の入力が可能で，患者基本情報と連動することが可能なシステムである。